

# 南吹田 水再生センター

## 見学レポート

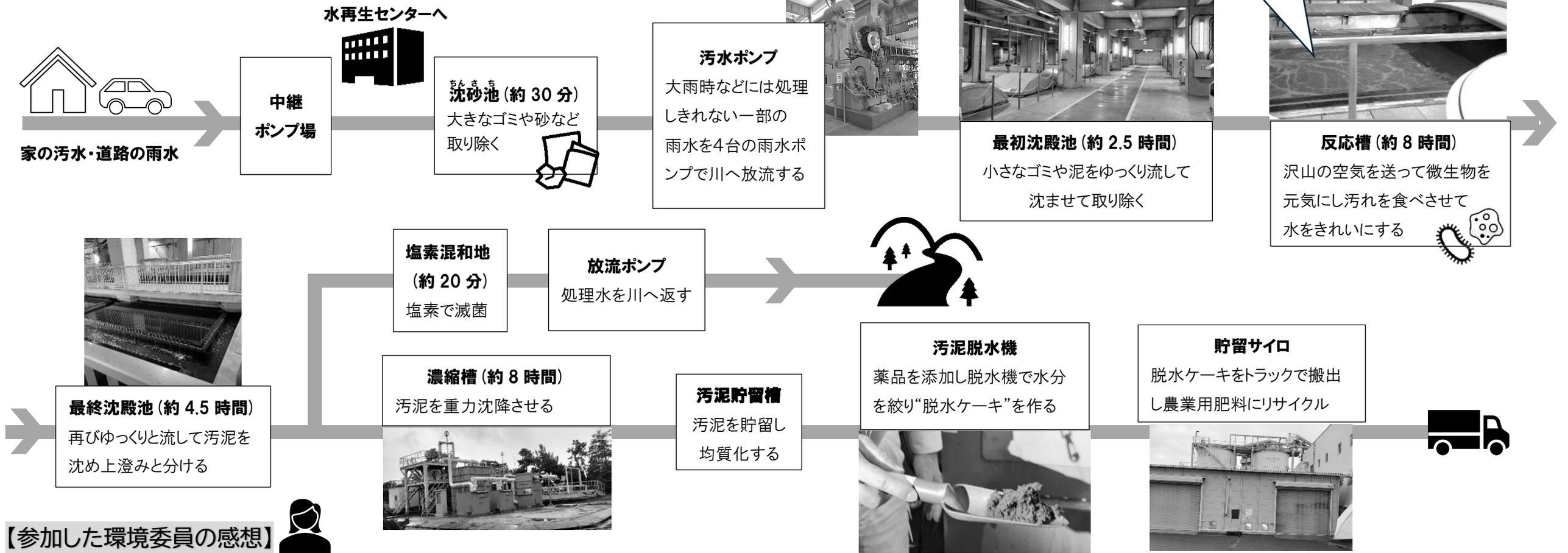
2024.10.7

環境委員会

私たち環境委員会は、組合員への石けん利用を呼びかけています。石けんは素晴らしい洗浄力がありますが（エコメール No.6 参照）、食器洗いの際はまず汚れを拭き取ることを伝えています。私たちが毎日使う水。家庭から出た排水がどうなるのか、実際に目にする事で組合員の皆さんにしっかり伝えたい！そんな思いで今回は委員研修として、下水処理施設を見学してきました。

施設内の広域監視室では、24 時間下水処理場を監視・運転操作しています。汚水をきれいにするだけでなく、水害から街を守るべく任務にあたっておられるとのこと。また、処理の工程で微生物が大活躍していることを知り、自然の力は本当に偉大であり私たち人間の営みは自然の循環のごく一部であることを感じました。一人ひとり“自分が流した排水に責任をもつ”ことで、自然へのせめてもの感謝を表すことができるのではないのでしょうか。

### 【水処理工程と汚泥処理工程】



### 【参加した環境委員の感想】

家庭からの汚水は台所から 40%と一番多く、し尿 30%、風呂 21%、洗濯 9%と続く。油やマヨネーズ、煮物の汁、米の研ぎ汁やシャンプーなどは、BOD(生物化学的酸素要求量・有機物の汚染指標)が高く、処理に時間がかかる。反応槽でたくさん空気を発生させて微生物をより活性化させなければならぬので、電気代がかかるということを知った。

「下水の処理」と言うよりも「雨水の危機管理」が最大の仕事であり、常に環境を監視し有事に備えておられるとのこと。処理場の施設が水没し機能しなくなれば、人の生活が立ち行かなくなる。この見学で処理場と気候危機とがはっきりとつながった。伝えていかなければと強く思う。

異物を除いて沈殿させ、上澄みを移動させて空気を入れて微生物を活性化させることが下水処理の主な仕組みで、ほとんどの処理場がこのシステムだそう。これはまさに BMW 生物活性水の仕組みと同じであることがわかった。

下水道を大切にするために家庭でできることとして、油やソースなどを直接流さないことが一番だと伝えたい。フライパンについての油、お皿についてのマヨネーズやソースなどもウエスなどでしっかり拭き取ってから石けんで洗う生活をする人を増やしていきたいと思う。